

第 23 回造血器腫瘍研究会プログラム

1 日目：平成 31 年 1 月 25 日（金） 13：15～17：45

2 日目：平成 31 年 1 月 26 日（土） 9：30～12：25

会場：石川県政記念しいのき迎賓館 2F（ガーデンルーム、イベントホール）
石川県金沢市広坂 2 丁目 1 番 1 号

世話人：金沢大学がん進展制御研究所 平尾敦

事務局

第 23 回造血器腫瘍研究会事務局

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学 がん進展制御研究所

遺伝子染色体構築研究分野内

TEL 076-264-6756

FAX 076-234-4508

E-mail: 23zouketsukisyuyoukenkyuukai@gmail.com

会場へのアクセス



1. タクシー
2. バス：JR 金沢駅バスターミナル 兼六園口（東口）3、6、8、9、10、11 番、
「香林坊（アトリオ前）」下車（所要約 10 分）、徒歩約 5 分

発表用 PC

原則として、ご自分の PC を持ち込んでください。
発表のセッションの前の休憩時間に、試写をお願いします。

発表時間

発表時間は質疑含めて 15 分です。
12 分(1 回)、15 分(2 回)にベルを鳴らします。

参加費

1,000 円

懇親会（18:00~20:00）

石川県政記念しいのき迎賓館 1 F
カフェ&ブラスリー ポール・ボキューズ
5,000 円

【1日目】

●13:15~13:20 開会の挨拶 平尾 敦

●造血器腫瘍モデル (座長：松井 啓隆) (13:20~14:05)

1. 巨核球増多を伴う3番染色体転座・逆位陽性白血病の解析

鈴木未来子 (すずき みきこ)¹、山岡彩香²、片山紗乙莉^{3,4}、山本雅之^{2,4} (1 東北大学大学院 医学系研究科 ラジオアイソトープセンター、²東北大学大学院 医学系研究科 医化学分野、³東北大学大学院 医学系研究科 小児病態学分野、⁴東北大学東北メディカル・メガバンク機構)

2. Loss of Utx Cooperates with Braf V600E Mutation to Induce Myeloma in a Conditional Mouse Model

Ola Rizq¹ (オラ リズク)、Naoya Mimura^{2,3}、Emiko Sakaida³、Hiroaki Honda⁴、Atsushi Iwama^{1,5} (1 千葉大学大学院医学研究院 細胞分子医学、²千葉大学附属病院 輸血部、³千葉大学附属病院 血液内科、⁴東京女子医大先端生命医学専攻 疾患モデル研究分野、⁵東京大学医科学研究所 幹細胞分子医学)

3. GATA2 hypomorph induces chronic myelomonocytic leukemia in mice

原田伸彦^{1,2}、藤田優城¹、長谷川敦史¹、清水律子 (しみず りつこ)¹ (1 東北大学大学院医学系研究科 分子血液学分野、²東北大学大学院医学系研究科 附属動物実験施設)

●エピジェネティクス (座長：千葉 滋) (14:05~14:50)

4. AF10 links histone chaperones Supt6h and FACT complex to MLL-fusion leukemia

山形和恒 (やまがた かずつね)¹、齋藤真理子¹、鈴木麻衣¹、勝本拓夫¹、相川祐規子¹、小河穂波²、渡邊俊雄²、北林一生¹ (1 国立がん研究センター研究所 造血器腫瘍研究分野、²奈良女子大学)

5. 変異型 ASXL1 はホメオボックスファミリー転写因子 HHEX と協調し、骨髄性白血病の発症・進展を促進する。

竹田玲奈 (たけだ れいな)¹、浅田修平¹、井上大地²、福山朋房¹、合山進¹、北村俊雄¹ (1 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 細胞療

法分野、²メモリアルスローンケタリング がんセンター)

6. IRAK1/4 阻害剤は、変異型 ASXL1 誘導 MDS/AML の発症・進展を抑制する。

佐藤成 (さとう なる)¹、合山進¹、劉瀟瀟¹、米澤大志¹、藤野尅至¹、山崎智²、柴田龍弘²、滝澤仁³、北村俊雄¹ (¹東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 細胞療法分野、²東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター ゲノム医科学分野、³熊本大学 国際先端医学研究機構)

●14:50~15:15 休憩

●転写制御 1 (座長：稲葉 俊哉) (15:15~16:00)

7. RUNX3 overexpression impedes RUNX1 and promotes the development of MDS/MPN

横溝貴子 (よこみぞ たかこ)、指田吾郎 (熊本大学 国際先端医学研究機構 白血病転写制御研究室)

8. Bcl11a による AML 発症、悪性化機序の解明

角南義孝 (すなみ よしたか)、中村卓郎 (公益財団法人がん研究会がん研究所発がん研究部)

9. MOZ-TIF2 が自己複製を活性化するメカニズム

横山 明彦 (よこやま あきひこ)、高橋慧、宮本亮、金井昭教、奥田博史、北林一生、稲葉俊哉 (国立がん研究センター)

●シグナル 1 (座長：原田 浩徳) (16:00~16:45)

10. mTOR 複合体 2 による白血病の治療耐性制御機構の解明

上野将也 (うえの まさや)、平尾 敦 (金沢大学がん進展制御研究所 遺伝子・染色体構築研究分野)

11. ヒストンメチル化酵素 SETD1A による白血病細胞増殖制御機構の解明

星居孝之 (ほしい たかゆき) (千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍学)

12. リボソーム生合成異常が招く白血病発症メカニズムの検証

神力悟 (しんりき さとる)¹、金井昭教²、長町安希子²、稲葉俊哉²、松井啓隆¹ (¹熊本大学大学院生命科学研究部 臨床病態解析学分野、²広島大

学原爆放射線医科学研究所 がん分子病態研究分野)

●16:45~17:00 休憩

●特別講演 (座長：岩間 厚志) (17:00~17:45)

東京大学医科学研究所 先端病態モデル研究分野・教授 山田泰広
「iPS 細胞技術によるがん細胞の理解と制御」

●18:00~ 懇親会

しいのき迎賓館 1階 カフェ&ブラスリー ポール・ボキューズ
乾杯 次期会長挨拶 北村 俊雄

【2日目】

●病態解析 (座長：森下 和広) (9:30~10:00)

13. MDS with fibrosis の臨床および分子生物学的病態解明

林嘉宏 (はやし よしひろ)¹、新谷直樹²、鍵山侑希¹、原田結花³、原田浩徳¹ (1東京薬科大学生命科学部生命医科学科 腫瘍医科学研究室、²順天堂大学医学部 血液内科、³東京都立駒込病院 臨床研究支援室)

14. Interpretation of TP53 mutations found in circulating cell-free DNA of malignant lymphoma patients at remission.

末原泰人 (すえはら やすひと)¹、坂田 (柳元) 麻実子¹、服部圭一朗¹、日下部学¹、千葉滋¹ (1筑波大学医学医療系血液内科)

●細胞間コミュニケーション (座長：中村 卓郎) (10:00~10:30)

15. 骨髄異形成症候群における、腫瘍細胞による正常顆粒球の分化抑制効果の解析

徳重淳二 (とくしげ じゅんじ)、正本庸介、黒川峰夫 (東京大学医学部附属病院 血液腫瘍内科)

16. ホジキン細胞と単球の直接接触で、単球の PDL1/L2 上昇が誘導される

川島雅晴 (かわしま まさはる)¹、カレーラス・エステバン・ジュアキム²、中村直哉²、幸谷愛¹ (1東海大学医学部 血液腫瘍内科、²東海大学医学部 病理診断学)

●10:30~10:50 休憩

●転写制御 2 (座長：黒川 峰夫) (10:50~11:35)

17. SWI/SNF クロマチンリモデリング因子と造血系転写因子の機能協調
栗原康通 (くわはら やすみち)、吉田達志、山崎健太、忠垣憲次郎、近藤則子、奥田司 (京都府立医科大学大学院医学研究科 分子生化学)
18. Tet2 loss reshapes Hmga2 bindings to promote the development of MDS/MPN
指田吾郎 (さしだ ごろう) (熊本大学 国際先端医学研究機構 白血病転写制御研究室)
19. 新規 3'エンハンサーによる Irf8 発現と単核貪食細胞系分化の制御
佐々木悠 (ささき はるか)¹、西山晃¹、川瀬航¹、西村晃成¹、黒滝大翼¹、関田洋一²、木村透²、田村智彦^{1,3} (1横浜市立大学大学院医学研究科免疫学、²北里大学理学部生物科学科幹細胞学、³横浜市立大学先端医科学研究センター)

●シグナル 2 (座長：田村 智彦) (11:35~12:20)

20. Samd9/Samd9L 変異体による受容体代謝調節の異常
長町安希子 (ながまち あきこ)¹、松井啓隆²、神力悟²、金井昭教¹、稲葉俊哉¹ (1広島大学原爆放射線医科学研究所 がん分子病態研究分野、²熊本大学大学院生命科学研究部 臨床病態解析学分野)
21. ATL 細胞におけるオートファジー・リソソームによる p47 分解亢進は NF- κ B 経路を活性化し、CADM1 の高発現を誘導する。
中畑新吾 (なかはた しんご)、森下和広 (宮崎大学医学部)
22. Disease-specific induced pluripotent stem cells identify calcium/calmodulin dependent protein kinase 2 gamma as a potential therapeutic target of myelofibrosis
Masashi Miyachi, Ken Sasasaki, Kazuki Taoka, Yosuke Masasmoto, Sho Yamazaki, Shunya Arai, and Mineo Kurokawa (Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo)

●12:20~12:25 閉会の挨拶 北林 一生

